

- 空港検疫により確認された患者等や海外の滞在歴のある患者等の検体について、国立感染症研究所において、ゲノム解析を実施。
- 現在（令和3年1月4日時点）、我が国では、計21例の変異株を確認。

合計	空港検疫により確認された患者等	海外の滞在歴のある患者等	英国で報告された変異株	南アで報告された変異株
21	18	3	20	1

## <日本における変異株の確認状況>

- 12月25日 英国から入国した乗客で、空港検疫の検査で陽性となった者 合計5名  
※英国で報告された変異株
- 12月26日 英国の滞在歴のある者で健康観察中に陽性が確認された者及びその濃厚接触者  
合計2名 ※英国で報告された変異株
- 12月27日 英国の滞在歴のある者で健康観察中に陽性が確認された者 合計1名  
※英国で報告された変異株
- 12月28日 海外から入国した乗客で、空港検疫の検査で陽性となった者 合計7名  
※英国で報告された変異株6名、南アフリカで報告された変異株1名
- 12月31日 海外から入国した乗客で、空港検疫の検査で陽性となった者 合計6名  
※英国で報告された変異株、※うち2人はUAEからの入国者

## 1. 英国で確認された変異株(VOC-202012/01)

- 英国の解析では今までの流行株よりも感染性が高い（再生産数Rを0.4以上増加させ、伝播のしやすさを最大70%程度増加する推定）ことが示唆される。
- 現時点では、重篤な症状との関連性やワクチンの有効性への影響は調査中である。
- 英国内では最初に報告されたのは12月上旬だが、最も早いもので9/20の発症から検出されている。

## 2. 南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)

- 感染性が増加している可能性が示唆されているが、精査が必要。
- 現時点では、重篤な症状との関連性やワクチンの有効性への影響を示唆する証拠はない。
- 南アフリカ内では8月上旬に発生し、11月中旬には、ほぼ全ての症例を占めていたとされる。

## 3. 国立感染症研究所からの推奨

- ▶ 変異株の**監視体制の強化**（検体提出、ゲノム分析の実施等）
- ▶ 変異株への感染者を見つけた場合、感染源、濃厚接触者の追跡と管理、臨床経過等を含めた**積極的疫学調査を行うこと**
- ▶ 変異株であっても、個人の基本的な感染予防策は、**従来と同様に、3密の回避、マスクの着用、手洗いなどが推奨**されること